



日本の地形3 東北

小池一之・田村俊和・鎮西清高・宮城豊彦 編
 東京大学出版会 発行, B5版, 376頁
 2005年2月刊行, 価格7,140円(税込)

日本全国を初めて網羅した地形誌である「日本の地形」全7巻の出版が、東京大学出版会創立50周年記念として企画され、東北日本の主要部である「東北」がこのたび刊行された。最終巻となる「中部」の早期完成が待たれる。

本シリーズ出版の趣旨は刊行のことばにもあり、人間活動の飛躍的な拡大にともなう地球環境と人類の将来が深刻な問題になりつつある今世紀のはじめに、日本の地形を総括して、環境の基盤をなす地形の性状と生い立ちを地形誌として刊行することにある。ちなみに、我が国における地形の調査研究は、地質学を外国人から修得した先達によって100年以上前に開始された。

長い海岸線を持つ日本の中で東北地方には、長く単調な砂浜や海岸砂丘が発達する。これは新第三紀層の地すべり地帯や火山フロント以西にある多くの第四紀火山などの不安定な山地・丘陵から河川を通じて供給される土砂量が多いためである。このように成長しつつある若い地形が東北地方の大きな特徴のひとつになっている。一方、リアス海岸で縁取られた北上山地やなだらかな阿武隈山地は土砂生産の少ない安定した地形・地質条件を備えている。

地形的に多彩な東北地方は、太平洋プレートの沈み込みを原動力とする典型的な島弧-海溝系の地質構造と地形を持っている。東から、深い海溝→北上・阿武隈山地→低地帯→多くの火山を乗せる奥羽脊梁山脈→盆地群→きわめて新しい褶曲山地で火山活動も見られる出羽山地→日本海側沈降帯→日本海東縁変動帯のように分けられる。以下の章立はこの地形区分にしたがったものである。

1章では、まず島弧としての東北日本の地質構造と地史が最新の研究成果に基づいて簡潔に解説される。続いて東北地方の大地形と地形区分、地形を特徴づける気候の特色、地形形成史の概要、地

日本の地形3 東北 目次

- 1章 総説
- 2章 北上山地と阿武隈山地
- 3章 下北半島・北上低地帯・阿武隈低地帯
- 4章 奥羽脊梁山脈と火山群
- 5章 南北に連なる盆地群と日本海に注ぐ河川群
- 6章 出羽・飯豊山地と日本海沿岸の地形
- 7章 東北日本の地形発達
- 引用文献・索引・執筆者所属・執筆分担一覧

形・地質編年が次章以下のために平易に紹介されている。2章から6章では、東北地方の地形を小区分単位で扱った地形誌に相当し、章ごとに特色ある地形が解説される。さらに、島弧-海溝系の地質構造に関連し、阿武隈沖の海底地形が2章、日本海沿岸の海底地形や海底地質が6章のそれぞれ終節で紹介されている。7章では、山地と盆地の分化、第四紀後半の環境変遷と地形発達に続き、東北地方の自然災害として火山・地震災害、海岸侵食、斜面や地すべり災害が詳しく解説されているのも大きな特色になっている。

本書は我が国における著名な地形・地質学者である編者らと、東北地方の地形や地質などの調査研究に従事された共著者の37名による大作である。専門用語をなるべく少なくし、わかりやすい記載を心がけ、読者の便宜のための注記が付され、最新情報などの興味深いコラム欄が2~6章末に設定されるなど編集上の配慮や工夫が随所に見られる。ただし、口絵にある東北の地質図の色にはJIS規格と異なるものがあり、トレンチ調査の写真で鮮明さを欠くなど若干気になる個所もある。

人間活動の舞台をなす地形は、地球表面での多種・多様な自然のはたらきと人間の土地改変の歴史の現在にいたる最終生成物として広がっている。本誌の読者にとっても本書は、このような側面を持つ東北地方の地形に関する最新情報の網羅された教科書として大いに役立つであろう。本書およびシリーズの既刊分を入手され、利用されることをお勧めする。

(深部地質環境研究センター 磯部一洋)